



TITLE:

女子傍尿道平滑筋腫による尿閉の1例

AUTHOR(S):

永井, 信夫; 片山, 孔一; 井口, 正典; 江左, 篤宣

CITATION:

永井, 信夫 ...[et al]. 女子傍尿道平滑筋腫による尿閉の1例. 泌尿器科紀要 1988, 34(4): 696-700

ISSUE DATE:

1988-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/119528>

RIGHT:

女子傍尿道平滑筋腫による尿閉の1例

市立貝塚病院（部長 井口正典）

永井 信夫, 片山 孔一, 井口 正典

近畿大学医学部泌尿器科学教室（主任：栗田 孝教授）

江 左 篤 宣

A CASE OF URINARY RETENTION DUE TO A FEMALE PARAURETHRAL LEIOMYOMA

Nobuo NAGAI, Yoshikazu KATAYAMA and Masanori IGUCHI

*From the Department of Urology, Kaizuka Municipal Hospital, Osaka
(Chief: Dr. M. Iguchi)*

Atsunobu ESA

*From the Department of Urology, Kinki University School of Medicine
(Director: Prof. T. Kurita)*

A case of urinary retention due to a female paraurethral leiomyoma is reported. The patient was a 67-year-old female who visited our clinic complaining of urinary retention. Urinary sediment and intravenous pyelography revealed no abnormal findings. An oval-shaped mass was palpated at the anterior vaginal wall. The tumor was 7×6 cm in size, elastic hard in consistence, irregular surfaced and well movable. Computed tomography revealed a calcified tumor in the urethrovaginal septum extending over all the urethral length from the bladder neck to the urethral meatus. Cystourethroscopic examination revealed a bladder neck elevation. Transvaginal needle biopsy was performed and the pathological diagnosis was benign leiomyoma. Transvaginal removal of the tumor was performed under the diagnosis of female paraurethral leiomyoma. The tumor was easily dissected from the vaginal wall but was adhered rather firmly to the urethra. The origin of the tumor could not be identified. Postoperatively, urination was improved. Female paraurethral leiomyoma is rare but must be considered as a cause of urinary retention.

Key words: Female urethra, Paraurethral tumor, Leiomyoma

緒 言

女子傍尿道平滑筋腫は比較的稀な疾患で、通常腫瘍を自覚して受診することが多く、排尿障害を伴うことは少ないとされている。今回、尿閉をきたした女子傍尿道平滑筋腫を経験したので報告する。

症 例

患者：A.T., 67歳，女性

主訴：尿閉

家族歴：特記事項なし

既往歴：1956年，子宮筋腫により単純子宮全摘除術をうけた。

現病歴：1985年11月に突然尿閉をきたしたが，一度導尿を受けただけで自然治癒し放置していた。1986年

1月16日，再び尿閉となり，当科を受診した。1,050 ml 導尿し，Foley catheter を留置のうえ諸検査を予定したが，全身倦怠感を訴えるため，同年1月23日に入院した。入院後，会陰部に異物感を訴えた。

理学的所見：体格中等，栄養良。下腹部正中切開創を認む。腔内診で尿道腔中隔に長径7 cm，短径5 cm 大の表面不整，弾性硬，可動性良な長円形腫瘤を触知した。尿道カテーテルは容易に挿入された。

検査成績：血液検査；RBC 397×10^4 , Hgb 12.9 g/dl, Ht 40.8%, Plt 30.1×10^4 , WBC 111×10^3 , (St 2, Seg 82, Lym 16, Mo 0, Eo 0, Bas 0), 血液化学検査；T.P. 7.1 g/dl, Alb 3.8 g/dl, A/G 1.15, GOT 21 KU, GPT 18 KU, LDH 315 WU, AIP 5.6 AU, T-Bil 0.5 mg/dl, D-Bil 0.1 mg/dl, BS 93 mg/dl, Chol 230 mg/dl, TG 130 mg/dl, Cr 0.7 mg/dl

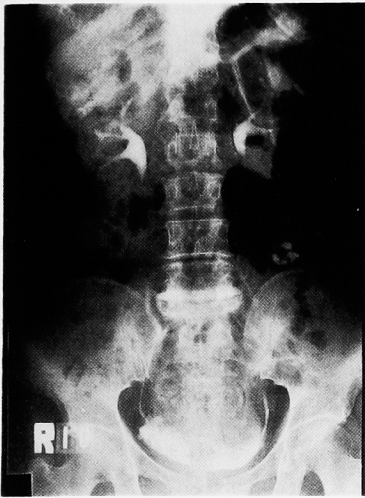


Fig. 1. IVP showed no abnormal findings.

dl, BUN 15.2 mg/dl, 尿酸 3.9 mg/dl, Na 140 meq/l, K 3.6 meq/l, Cl 105 meq/l, Amy 2,261 IU, 尿検査; pH 7, prot (±), sug (-), RBC 0~1/hpf, WBC 15~20/hpf, 尿細菌培養; *staphylococcus* 10²/ml, 尿細胞診; Pap. class IV

膀胱鏡検査：膀胱三角部から頸部にかけて膀胱外からの圧迫と思われる膨隆と、軽度の肉柱形成を認めたが、腫瘍は認めなかった。

IVP 検査：上部尿路に異常所見を認めなかった (Fig. 1).



Fig. 2. CT revealed calcified paraurethral tumor extending over all the urethral length in the urethrovaginal septum.

CT 検査：尿道腔中隔に、上部は膀胱頸部から尿道のほぼ全長にわたる、長径 7 cm, 短径 5 cm の石灰化を伴う腫瘍を認めた。腫瘍は残存する子宮頸部および膀胱からは離れていたが、腔および尿道とは密接していた (Fig. 2).

入院後経過：以上より女子傍尿道腫瘍と診断した。

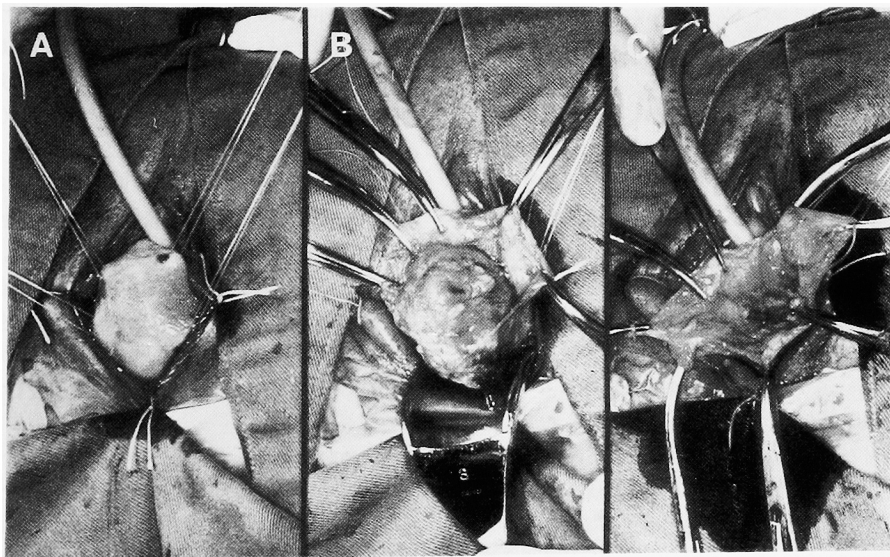


Fig. 3. A: Appearance of external genitalia. Tumor was found at the anterior vaginal wall. B: Operative findings. Tumor was revealed at the posterior urethral wall. C: After removal of the tumor.

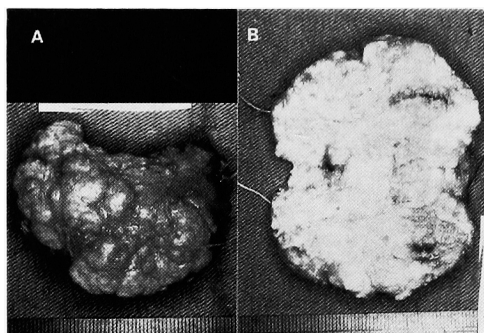


Fig. 4. Macroscopic photography: Tumor was 40 g in weight, 5×5×6 cm in size and the surface was irregular. Cut surface of the tumor was grayish white in color, homogeneous and stony hard in consistency.

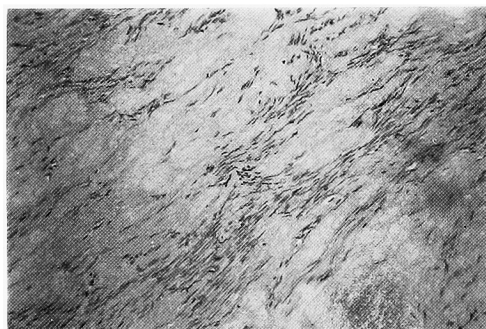


Fig. 5. Microscopic examination revealed benign leiomyoma. (HE stain, ×200)

尿細胞診で Pap. class IV であったため、念のため経腔的針生検を施行し、平滑筋腫の病理組織診断を得たのち、1986年2月26日に手術を施行した。

手術所見：腫瘍存在部の膀胱壁に切開をおき、膀胱腫瘍を剝離し、腫瘍後面に達して尿道から腫瘍を剝離し、腫瘍後面に達して尿道から腫瘍を剝離摘除した。腫瘍は尿道の全長とやや強固に癒着し、膀胱頸部に至ったが、腫瘍の発生部位は判然としなかった。尿道括約筋との癒着も高度で、腫瘍摘除に際し括約筋の一部損傷をきたし、この縫合を要した。併せて、子宮頸部断端を切除したが、腫瘍とは何ら関係なかった (Fig. 3)。

摘除標本：摘除標本は、重量 40 g、大きさ 5×5×6 cm³、表面不整、弾性硬で、割面は、均一な灰白色の充実性腫瘍であった。割を入れる際は非常に硬かったが、石灰沈着によるものと考えられた (Fig. 4)。

病理組織学的検査：hyalin degeneration をともなう fibrous な泡沫状増殖および fiber の増加が認められた。また、泡沫状の胞体をもち、核が円形な小型の

細胞の増殖が見られ、平滑筋腫と診断された (Fig. 5)。

手術後経過：術後は順調に経過し、尿道括約筋損傷による尿失禁もなく、排尿状態は全く正常となった。10カ月後の現在まで再発を認めていない。

考 察

女子傍尿道腫瘍は比較的稀な疾患であるが、すでに本邦では80例余りが報告されており、婦人科領域で膀胱壁非上皮性良性腫瘍と診断されているものを含めると実数はさらに多いと推定されている¹⁾。病理組織学的には平滑筋腫が最も多いが、他に線維筋腫、線維腫、血管腫、神経線維腫などがある。従来、これらの間葉性腫瘍は発育部位の判別が困難で、尿道腫瘍と膀胱腫瘍の名称が与えられ、さらにまた、尿道との癒着の程度により傍尿道腫瘍と尿道腫瘍を区別する考えもあって^{2,5)}、名称が混乱している。自験例は膀胱壁との癒着は全くない一方、尿道との癒着はやや高度であったものの、尿道から発生した証明はなく、傍尿道腫瘍と称するのが適当と考えた。尿道内に突出して生育するものを尿道腫瘍とするべきであろう。

本邦の傍尿道平滑筋腫に関しては、林正らの34例、能登らの44例および中目らの53例を集めた綜説的報告があり⁴⁻⁶⁾、発生病理および治療法については、それらの報告に新たに加えるべき知見はない。今回、中目ら以後の傍尿道平滑筋腫および尿道平滑筋腫11症例を集計し示したうえ、本邦症例65例で、自験例との関連において、少しく検討する⁷⁻¹⁰⁾ (Table 1)。

年齢の判明している64例で発症年齢を検討すると、平均年齢 38.2 ± 11.6 (Mean \pm SD) 歳で、30歳台から40歳台の発症例が45例 (70.3%) と多いのに対し、自験例のごとき60歳台以上の高齢発症は4例 (6.3%) と少ない (Table 2)。

腫瘍重量の記載がある41例で重量を検討すると、最小 2.1 g、最大 95 g、平均重量は 22.3 ± 21.4 g (Mean \pm SD) である。10 g 未満が14例と最も多く、ついで10 g 以上 20 g 未満が11例で、これらで25例 (62.9%) を占める (Table 3)。自験例は 40 g と比較的大きいこと、石灰沈着を認めることなどは、かなり長期にわたって腫瘍が存在していたことを示唆しているものと考ええる。

症状の判明している59例で検討すると、症状は外陰部腫瘍が40例 (67.8%) と最も多い。ついで多いのは、排尿困難、尿道不快感、排尿時痛、尿線の乱れ、頻尿および尿失禁など、なんらかの排尿障害で18例 (30.5%) あり、従来いわれているより多い。しかし、尿閉は2例 (3.4%) のみで、うち1例は内尿道

Table 1. Female paraurethral leiomyoma in Japan (post Nakame, 1984)

Cases	Author	Age	Symptom	Location in the urethra	Size (cm)	Weight (g)
54	木内	46	bleeding	anterior	—	—
55	鍋倉	41	tumor	anterior	2.0 x 1.8 x 1.2	2
56	淡河	44	tumor	urethro-vaginal septum	7 x 6 x 4	65
57	宮前	57	bleeding	posterior	5.5 x 4.5 x 2.5	33
58	小川	30	tumor discomfort	anterior	2 x 1 x 1	—
59	垣本	45	tumor	posterior	6 x 5 x 3.5	60
60	井川	29	tumor	urethro-vaginal septum	3.5 x 3.5 x 3.0	12
61	井川	34	tumor incontinence	anterior	3.0 x 2.5 x 2.0	10
62	播本	47	tumor	urethro-vaginal septum	3.7 x 4.5 x 3.0	—
63	宗像	53	pollakisuria incontinence retention	posterior	4 x 4 x 3.5	24.9
64	川口	31	tumor disturbance of urinary stream bleeding pain	—	3.5 x 3.0 x 2.5	11
65	自験例	67	retention	urethro-vaginal septum	5 x 5 x 6	40

Table 2. Age distribution of females with paraurethral leiomyoma.

Age	No.	%
10~19	2	3.1
20~29	9	14.1
30~39	24	37.5
40~49	21	32.8
50~59	4	6.3
60~69	3	4.7
70~79	1	1.6
Total	64	100.0

Table 3. Weight of female paraurethral leiomyoma in Japan.

weight (g)	No.	%
<10	14	34.1
10≤	11	26.8
20≤	7	17.1
30≤	2	4.9
40≤	2	4.9
50≤	0	0
60≤	4	9.8
70≤	0	0
80≤	0	0
90≤	1	2.4
Total	41	100.0

Table 4. Symptoms with female paraurethral leiomyoma in Japan (No. of cases = 59)

Symptom	No.	%
Tumor	40	67.8
Disturbance of urination	18	30.5
(Dysuria)	(5)	(8.5)
(Disturbance of urinary stream)	(4)	(6.8)
(Miction pain)	(3)	(5.1)
(Urinary incontinence)	(3)	(5.1)
(Pollakisuria)	(3)	(5.1)
(Urinary retention)	(2)	(3.4)
(Urinary discomfort)	(1)	(1.7)
Bleeding	13	22.0
Discomfort	6	10.2
Pain	5	8.5

口部に有茎性に発生した腫瘍である¹⁵⁾。尿道外からの圧迫による尿閉は自験例のみであった。排尿困難もわずか5例(8.5%)にすぎない(Table 4)。排尿困難には腫瘍の大きさよりもその位置が関係するといわれており⁴⁾、本症例のごとく内尿道口付近に発生した場合には排尿困難が強く出現すると考えられる。また、高度の石灰沈着によるかなり硬い腫瘍であったことも関係している可能性がある。

女子の排尿困難は時として診断に窮することがある

が、本疾患も念頭に置いて腔内診を怠らないことが必要であると考え。

結 語

1) 67歳、女性にみられた尿閉をきたした傍尿道平滑筋腫を報告した。

2) 本邦65例を集計し、臨床的検討を加えた。

3) 女子の排尿困難には、本症も考慮すべきであることを強調した。

本論文の要旨は第115回日本泌尿器科学会関西地方会で報告した。

稿を終えるにあたり近畿大学医学部泌尿器科学教室栗田孝教授の御校閲を深謝します。

文 献

- 1) 橋本雅善, 大園誠一郎, 馬場谷勝廣, 肱岡 隆, 生間昇一郎, 平尾佳彦, 伊集院眞澄, 岡島英五郎: 女子傍尿道非上皮性腫瘍の2例. 奈医誌 **33**: 355-363, 1982
- 2) 浅間美智雄, 河村香月, 藤間弘行: 女子尿道粘膜下筋腫の1例. 臨泌 **24**: 69-71, 1970
- 3) 吉岡俊昭, 並木幹夫, 板谷宏彬: 女子傍尿道平滑筋腫と尿道瘤の合併した1例. 西日泌尿 **42**: 815-818, 1980
- 4) 林正健二, 松田公志: 女子傍尿道平滑筋腫の1例. 泌尿紀要 **25**: 495-498, 1979
- 5) 能登宏光, 坂本文和, 佐藤貞幹, 西沢 理, 山中雅夫: 女子傍尿道平滑筋腫の1例. 臨泌 **36**:

883-886, 1982

- 6) 中目康彦, 金親尚史, 吉田謙一郎, 根岸壮治: 女子傍尿道平滑筋腫の3例. 埼玉県医学会雑誌 **19**: 792-795, 1984
- 7) 木内弘道, 森永 修, 高田元敬: 陰茎, 尿道腫瘍3例 (①尿道内コンジローマ②尿道平滑筋腫③転移性陰茎腫瘍) 日泌尿会誌 **70**: 839, 1979
- 8) 鍋倉康文, 山本敏広, 山崎 仁, 寺崎 博, 上野文麿: 女子尿道平滑筋腫の1例. 西日泌尿 **47**: 179-181, 1980
- 9) 淡河洋一, 山本品弘, 宇山 健: 女子傍尿道良性腫瘍の2例. 日泌尿会誌 **73**: 952, 1982
- 10) 宮前加奈美, 柳下次雄, 三浦一陽, 白井将文, 安藤 弘: 女子傍尿道腫瘍の1例. 日泌尿会誌 **74**: 1705, 1983
- 11) 小川 修, 吉村直樹, 西村一男, 中川 隆: 女子傍尿道平滑筋腫の1例. 泌尿紀要 **30**: 1867-1872, 1984
- 12) 垣本 滋, 実藤 健, 近藤 厚, 関根一郎: 女子傍尿道平滑筋腫の1例. 西日泌尿 **46**: 1365-1368, 1984
- 13) 井川靖彦, 山口建二, 米山威久, 小川秋実, 内山俊介: 女子尿道平滑筋腫の2例. 臨泌 **38**: 433-435, 1984
- 14) 播本和敬, 小川隆敏: 女子傍尿道平滑筋腫の1例. 日泌尿会誌 **74**: 697, 1984
- 15) 宗像昭夫, 中村昌平, 宮崎尚文, 坂本義郎, 西村洋司: 女子尿道平滑筋腫の1例. 日泌尿会誌 **76**: 445, 1985
- 16) 川口俊明, 古川利有: 傍尿道平滑筋腫の1例. 日泌尿会誌 **76**: 440, 1985

(1987年3月17日受付)